

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100685		
法人名	医療法人 室原会		
事業所名	鈴の音		
所在地	熊本市中央区国府1-3-15		
自己評価作成日	令和6年 2 月 8 日	評価結果市町村報告日	令和 6 年 3 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 6 年 3 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家族的介護」という理念に基づき、入居者の方とスタッフが家族のような雰囲気ですりどりに寄り添ったケアを心掛けています。個人の有する能力を活かす維持できるような料理やお菓子作り、ベランダを活用してプランターで花や野菜を育てたり、ご家族も含め個別の外出を実施しています。また、日頃から身体能力の維持向上に努め、リハビリ体操やゴムバンドを使った運動、歩行訓練なども行っており、同法人の理学療法士や作業療法士・言語聴覚士の訪問指導もあります。地域で長く開業している医療機関が母体で、施設に隣接しているため医療との連携も充実しており、安心して日々の生活が送れるよう主治医と連携し急な体調不良にも迅速に対応致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で訪問の際、入居者皆さんの明るい「こんにちは」の挨拶で出迎えて頂きました。居室はまるで自宅のように個々の生活や家族を感じられます。事業所での生活は、花が好きな方とは花を植えて生育を楽しみ、居室では読み物や書き物をする姿もあり、これまでの生活の継続が感じられます。職員面談でも、ケアを大事にしながらも家庭的である支援が行われている様子が聞かれました。「家族的介護」の理念は介護計画にも反映されており、「花の水やり」や「世間話をする」等も入れられています。コロナ禍で様々な制約もあったと思いますが、近所のお地藏様へのお参りや感染対策の上でのドライブ、行事の開催等、生活を楽しむ取組みが継続されています。医療機関が母体である法人全体で入居者の安心・安全、豊かな生活のために取組まれている様子がうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族的な介護」を理念に掲げている。また、心がけに沿ったあたたかみのあるケアに努めている。職員は、介護理念と心がけを記したカードを携帯している。	理念は職員間でのケアの基本とされていることであり、名札カードに入れ携帯している。介護計画も「家族的な介護」をもとに作成されており、具体的内容として「世間話をする」等も入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で地域の活動等の把握に努めているが、新型コロナウイルス感染症の影響で現在はあまり外出やふれあいの機会が少ないのが現状。今後徐々に増やしていきたい。	感染症対策により入居者と地域とが繋がる機会作りは難しい状況が続いており、散歩の際の挨拶程度である。地域行事等再開の際の入居者の参加や近隣スーパーでの買い物等、日常的な交流の再開を予定している。	感染症対策を行いながら外出等も行われ、入居者に馴染みのある場所等も訪れておられました。対策緩和後は入居者と地域の繋がりを感じられる計画等の実現に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和4年4月から1階で認知症予防教室を行っている。また、令和5年9月から短期集中予防事業（〇型通所事業）の認可も受け理学療法士が指導をしている。運動や野外活動のほか、熊本市が作成した「メッセージノート」の講演会等を計画・開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有料老人ホームと一緒に運営推進会議を開き、活動報告など行い意見や地域の現状などを聞き、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回の運営推進会議は法人事業所と合同で開催している。意見交換では家族・地域役員・有識者等より多様な要望・助言もありサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告や相談、運営上の相談等をしてアドバイスを頂いている。また、運営推進会議に地域包括支援センターの方へ出席して頂き情報交換等行い協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センターより参加があり、日頃の取組みを伝え情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為ベランダにセンサーを取り付けているが、自由に移動できている。また身体拘束適正化委員会を定期的に開き勉強会、研修等を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向け、身体的拘束等の適正化及び虐待防止委員会により年間計画により研修を重ねている。研修及び委員会では、言葉遣いや具体的な言い換え、身体拘束にあたる行為について等、具体例を議題として職員間で意見を出し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について定期的に会議や勉強会を開き、虐待防止の徹底に努めている。全職員が日頃から、更衣時や入浴時にボディチェックを行い異常がないか観察を行い、虐待防止に努めている。		

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護に関する理解や成年後見制度について、動画を見たり資料を使って学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必要な説明を行い、入居者やご家族が理解・納得した上で契約を行っている。また常日頃から疑問や要望には随時答えられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族からの聴き取りや、意見箱の設置、定期的な家族への連絡を通して意見、要望を聴き運営に反映させるよう努めている。	運営推進会議開催時には全家族へ案内を出し、参加頂ける家族もおられる。面会や電話連絡等で入居者の様子を伝え、意見・要望を確認している。感染症対策による面会制限も少しずつ緩和したことにより、入居者の様子を直接伝え、要望等を確認できるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時には事前に意見を収集し、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させるよう努めている。また、年に一度はストレスチェックも実施しており、法人全体でフォロー出来る体制を設けている。	職員は管理者へいつでも意見や提案を表すことができる。毎月の職員会議には法人総括マネージャーの参加もあり、個別面談等で法人へ直接意見を伝えることもできる。ストレスチェックアンケートも実施されており、必要に応じ医師の診察も受けられる。コロナ禍では職員の心の疲れもあり、法人の後ろ盾が大ききものであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者又は代理である総括マネージャーが職員会議に参加したり、個別面談を行い職員の思い、要望を聴き、職場環境の整備に努めている。また、管理者も可能な限り介護業務に加わり職場環境や勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に自己評価を行い職員一人のケアの実際と力量の把握に努めている。また施設内で研修会を設けてスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の影響で交流の機会が減ったが、以前のようにネットワークづくりや勉強会等にも参加出来るよう取り組みを検討している。		

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の思い・要望や不安な事など聴き、職員間で共有している。本人と家族の意向を出来る限り実現していけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の面談で管理者・計画作成者及び介護職員も同席し、家族の思いを丁寧に聴き疑問や不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時には管理者や計画作成者及び介護職員も同席し、いろいろなサービス提供の可能性も考え、本人と家族が何を必要としているのか見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、誕生会や季節行事など共に計画・実施している。昔のことや人生経験の話を教えてもらったりしていい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の要望を聴きながら、誕生会や行事などを出来るだけ一緒に計画・実施している。また遠方にいる家族には写真付きの広報誌やはがきを出して日頃の活動状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍では面会が制限され、オンラインを活用。現在も遠方のご家族とはオンラインを活用している。また、本人の昔話を聞いた、家族との思い出を話す機会やご家族との外出がスムーズに出来るように支援に努めている。	気軽な外出や交流は難しい状況が続いているが、感染症対策を行いながら、入居者の馴染みの場所へ季節のドライブに向いたり、職員同行にて家族と一緒に外出支援を行った。生活の中では、毎朝お経を唱える方もおられ、花が好きな方には水やりを介護計画に入れる等、これまでの習慣を大切に継続するための取組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や相性を考慮し食事の席の配置を検討したり、話題提供を行い入居者同士が関われる環境を多く作るよう努力している。		

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時に面会に行ったり、入院前後の相談や支援を行うよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などから本人の希望や意向をくみ取り、職員間で情報共有している。また、くみ取る事が困難な場合はご家族にも意見を聴き、本人の意向の把握に努めている。	日頃の職員からの声掛けや寄り添いにより思いや意向の把握を行っている。職員は日常的に入居者の横に座り話す時間もある。言葉を発することが難しい入居者には言葉掛けの方法を工夫したり、家族へも相談する等で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーやご家族から話を聴き、情報収集している。必要時には自宅訪問を行いこれまでの生活歴を聞き取り記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ったケアを行い個人記録に実施したケアを記録している。また、定期的に同法人の病院から理学療法士や作業療法士の訪問・指導やかかりつけ医に定期受診も行っており、専門分野のスタッフと現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回モニタリングを行い、本人に合ったケアが出来ているか検討している。また定期的にご家族に近況を報告し必要に応じて見直しや変更し現状に即したケアプランを作成している。	毎月のモニタリングでは各入居者の担当職員を中心に他の職員も意見を出し合いケアに対する検討を行っている。定期及び随時家族へ近況報告を行っており意向の確認をし、現状に即したケアプランを作成している。家族への説明はできるだけ来所頂き直接伝えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や行ったケアを個人記録に記載している。また、ケアプランに沿ったケアを行い記録することで、職員間での共有や介護計画の見直しに活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、地域交流などでその時々生まれるニーズに、家族や関係する機関と協力しながら柔軟に対応できるように努めている。		

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を回覧板などを通じて把握している。また消防訓練には入居者の方にも参加してもらい心身の力を発揮し、安全な暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に受診または往診してもらっている。職員が病院に付き添い情報提供し適切な医療が受けられるように支援している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しているが、現在は全入居者が協力医をかかりつけ医としており、毎月の通院を基本としている。その他専門医の受診は個別に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員に看護職員を配置し、同法人の病院と日頃から連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設医が中心となり、協力医である地域の医療機関と関係づくりを行っている。また同法人に病院があるため常に連携をとり関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のありかたについて本人やご家族と話し合いを行い、必要に応じて主治医や訪問ドクター・訪問看護にも協力してもらいながら、意向に沿えるよう努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針や対応を説明している。その時の状態による急変や看取りは訪問医師・訪問看護等協力・支援を得ながら支援を行っている。コロナ禍であった際もできるだけ家族と過ごして頂けるよう支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に配布してあるハンドブックに緊急時の対応フローチャートを記載している。また緊急時対応のためAEDを使用した研修を行い、実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を計画・実施している。緊急連絡網には地域の消防団も入り、地域の協力体制を築けるように努めている。	定期的に入居者も参加し消防(初期消火・通報・避難誘導)訓練を行い、講評を得ている。地域には消防団もあり、有事の際の協力体制づくりに努めている。事業所が2階であるため、非常階段の開錠等についても職員に伝えている。	近年は予想をはるかに上回る災害も見られます。事業所が2階であることから、特に夜間の事業所職員のみでの避難等、繰返しの訓練も必要と考えます。

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し丁寧なことばかけをするよう心掛けている。また、定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開き、不適切なケアがなかったか話し合い改善に努めている。	身体拘束・虐待防止委員会の際には日頃のケアの振り返りを行っている。居室でのオムツ交換の際にはドアを開けすぎないように等、具体的例を用い共有しており、随時検討が必要な際には職員間で話し合う機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、本人の思いや希望を表現できるような環境を作り、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、希望にそって支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを利用し身だしなみを整えるよう支援している。希望がある方は自分の好きな髪形にしその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事アンケートをとって、参考にしている。また、おやつ作りを一緒に行ったり、お寿司など好きなものを注文して食べてもらっている。	厨房で職員手作りの食事を提供している。年2回程度の嗜好調査で量・味と意見を確認しており、献立の希望も出ることがある。行事として月1回入居者と調理する機会を設けている。行事食やおせち料理等、季節を楽しむメニューも計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕に分けて食事量、水分量を記録し、状態把握に努めている。また、状態に応じて食事形態の検討を専門職やスタッフと話し合い検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、義歯の洗浄は毎食行っている。必要に応じて訪問歯科の検診や歯科衛生士のケアを受け口腔内の清潔保持に努めている。		

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握し、不快のないように努めている。出来るだけ布パンツを使用し、自立面やコスト面での支援をしている。	日中は排泄チェック表等も活用できるだけ布パンツを使用し、トイレでの排泄に向け支援を行っている。夜間はそれぞれの状態に応じて個別に対応している。支援方法やパット等の開始・大きさ・数量変更等には話し合い検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、水分を多くとってもらったり、レクリエーションで活動量を多くするよう取り組んでいる。個々に応じて排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回の入浴日を設けている。個々のペースに合わせて柔軟に入浴日を変えたり、気持ちよく入ってもらえるよう支援している。また、必要に応じて機械浴も利用して安楽に横になったまま浴槽につかっていただいている。	週3回一日おきの入浴を基本としている。一般浴槽の利用が難しくなった入居者には機械浴を利用し、浴槽でゆっくりと安心して過ごして頂けるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアのソファで休んだり、自分の部屋へ行って休んだりと自由に過ごしてもらっている。時間に合わせた雰囲気づくりをしていて、夜間は安心して休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書により副作用、用量の把握に努めている。服薬チェック表にて飲み忘れ、誤薬がないようにしている。また、薬の変更があった場合は注意深く様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し等個人に合わせた役割やゲーム・読書等の脳トレが出来るように支援をしている。またご家族等に聴き取りを行い趣味や興味のある事の発見に努めている。残っている能力を維持し楽しみながら生活できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見や紅葉見学など実施したり、近所を散歩し季節感を味わってもらおうよう努めている。また、ご家族と協力し一緒に外出支援もしている。	希望があれば近隣の散歩に出かけ、季節の花見や紅葉見学のドライブにも出かけている。家族の協力、職員同行で外出した入居者もおられる。事業所は2階であるが、ベランダでは花や野菜を育てており、水やり等で外気を感じる入居者もおられる。	

認知症対応型共同生活介護 鈴の音

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方が多く施設で管理している。今後は以前のように買い物などの付き添いを出来るように支援していきたい。また、家族の希望で少額のお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由にしている。また、ケアプランに位置づけて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに季節感のあるかざりや絵を利用者と一緒手作りして共用の場所に飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	住宅街の2階であり、明るく見晴らしのよい空間である。食卓の他色々な場所にソファが置かれており、自由に過ごすことができる。花が好きな入居者もおられ、ベランダでは花の栽培もみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションを楽しんでもらえるように輪になってもらったり、ベランダのそばで外を見ながら過ごしたり入居者の好きな時間の過ごし方の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が動きやすいように配置に配慮しながらゆっくりできる時間を持てるように配慮している。また、ご家族との写真や慣れ親しんだ物や仏壇を持ってきてもらったりして、心地よく過ごせるよう支援している。	テーブルを持ち込み書き物や読み物を楽しむ方もおられ、入居以前の生活の継続ができるよう、入居者それぞれの部屋の設えがある。入居者の身体状況の変化が見られる際には、安全に配慮した部屋作りを検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差の解消、ベッドの高さ調整などで個人の自立を促している。ご自分の部屋の前には馴染みの飾りをかけて認識しやすくしたり、ナースコールを設置し安全で自立した生活が出来るよう支援している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 鈴の音

作成日 令和 6 年 3月 26日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍以前はなじみの店に行ったり、ボランティアの人たちとの触れ合いがあったが、現在出来ていない	近所なじみの店を訪れる。ボランティアの受け入れ態勢をととのえる	感染対策を行いながら少人数でなじみの店に買い物に行く	1年
2	35	災害訓練を定期的に行っているが、夜間帯の訓練も繰り返し行っていく	夜間帯を想定した災害時の対応や避難路の確認	夜間帯の地震時の対応や避難等について実践する	1年
3	34	利用者の急変時の対応に不安がある為、再度確認する	利用者の急変時スタッフが同じように対応できるようにする	急変時を想定した勉強会を行う。マニュアルやフローチャートを使用する	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。